

【兵庫県姫路市】

背景・課題

- ・姫路駅前のバスターミナルやタクシー乗り場が分散しているため、歩行者と一般車両の動線とが交錯しやすい状況。
- ・歩行空間・公共交通アクセスの利便性低下が一因となり、まちなかの賑わいが低下

歩行者交通量(車椅子・自転車含む) : 83,938人【H19】→65,121人【H23】

※中心市街地主要7地点の合計

関係者の協働により、駅前を大胆なトランジットモール化
移動動線の輻輳を解消し、賑わい創出へ

- ・駅周辺に分散していたバスターミナルなどを広場西側に集約するとともに、トランジットモール化により、一般車両との動線交差を解消。
- ・公共交通の円滑な運行を実現するとともに、安全でゆとりある歩行・環境空間を創出。
- ・公共交通利用者数、駅前の歩行者数の増加を実現。



■整備前

■整備後

姫路駅北側をトランジットモール化し、路線バス、タクシー、許可車両以外の車両の通行が禁止され、一般車の出入りは不可能となっている(平成27年4月開始)。

■駅前広場のデザインに住民意見の反映

デザインに関し商店街連合会などから意見や提案

姫路駅北駅前広場整備推進会議

- ・意見・提案の集約と駅前広場のコンセプト等を決定する組織。
- ・市や民間それぞれの案を比較検討。17回会議を開催。

各種団体
(商店街連合会、まちづくり団体等)

交通事業者
(鉄道会社、バス会社、タクシー会社)

土地・建物権利者
(ビル会社等)

行政機関
(市、公安委員会、県)

市民フォーラム

- ・姫路の都心部の将来のあり方のフォーラムを開催(約450人來場)
- トランジットモール化の提案※
- ※推進会議においても議論が開始

トランジットモール化の社会実験

姫路市
(都市拠点整備本部)

関係者
(公安委員会、まちづくり団体等)

- ・社会実験として一般車両の通行を終日制限。
- ・周辺交通への影響などの課題を把握し、関係者と協議・対応。
- ・まちづくり団体や交通事業者等と協働して情報提供や広報活動。

■姫路駅北駅前広場の整備(概要)

○交通結節機能の向上

分散していたバス・タクシー乗り場を広場西側に集約し、その上空にJR姫路駅と山陽電鉄姫路駅を結ぶ歩行者連絡デッキを整備。

○道路空間配分の見直し

駅前への進入を路線バス・タクシーに限るトランジットモール化により、大手前通り(幅員50m)の車道を2車線に縮小し、歩道の大幅な拡幅(合計約18m→約34m)を実施。

○官民協働による駅前整備

トランジットモール化を含めた姫路駅周辺整備について、市民団体、交通事業者等と協働して情報提供や広報活動を展開。

■姫路駅北駅前広場の整備(効果)

○JR姫路駅乗客数の増加

1,676万人【H17】→1,887万人【H27】

○姫路駅前の歩行者交通量の増加※中心市街地主要7地点の合計

6.5万人【H23】→7.3万人【H27】

○駅周辺の歩行・環境空間の創出

歩行・環境空間比率26%(整備前)→67%(整備後)